

国重要文化財 指定記念
「村尻遺跡出土品」
特別展示会



平成25年6月28日[金]～6月30日[日]
新発田市カルチャーセンター ミーティングルーム
新発田市・新発田市教育委員会

このたび、当市を代表する弥生時代遺跡である村尻遺跡の出土品が、国重要文化財（美術工芸品・考古資料）に指定されました。郷土の文化遺産が、国を代表する文化財に選ばれたことは誠に喜ばしい限りです。市ではこの指定を記念して、ここに特別展示会を開催いたします。どうぞゆっくりとご覧いただき、先人の生み出した優れた造形美と、悠久の大地に残された歴史に想いをはせていただきたく存じます。

なお、遺跡の発見から発掘調査、そして今回の国指定に至るまで、地域の皆様をはじめとする多くの方々から多大なる御理解と御支援を賜りましたことを、ここに深く感謝申し上げます。

重要文化財

「新潟県村尻遺跡出土品」一括

（平成25年6月19日付け 文部科学省告示第114号）

どぐうがたようき 土偶形容器	1点	ふかばちがたどき 深鉢形土器	2点
つぼがたどき 壺形土器	10点	ほねたれかざり 骨垂飾	2点
かめがたどき 甕形土器	1点	(附) 石片	1点
はちがたどき 鉢形土器	1点	合計	18点



○土偶形容器

この容器は、墓に納めるために作られた特別なものです。高さ45cmと大型で、顔や腕の表現を省きつつも、あたかも人体そのものを模したかのような造りは他に例がなく、極めて貴重です。



○骨垂飾・石片

土偶形容器と同じ墓穴から、孔の開けられたヒトの手の指と見られる骨2点が見つかりました。紐を通して身につけていたと考えられます。

また、土偶形容器の下には、鋭い刃の流紋岩製の石片が埋められていました。



○土器

墓穴に埋められた土器の多くは、弥生時代を特徴づける大型の壺形土器です。日常的に使用していたものを、骨を納める容れ物として転用したと考えられます。

また、墓穴からは鉢形土器や深鉢形土器も出土していますがこれらは壺の蓋として用いられていました。



○村尻遺跡 調査の概要

【所在地】

新潟県新発田市下寺内字前坪

【調査のあゆみ】

昭和37年 田中正治氏により弥生時代の土器が発見

昭和55年 市教育員会が発掘調査を実施
～56年 (県営ほ場整備)

昭和57年 弥生時代の出土品13点が市指定有形文化財となる

平成2年 ヒト形土器（土偶形容器）と赤色塗彩の壺形土器の2点が県指定有形文化財となる

平成25年 弥生時代の出土品18点が国重要文化財に指定

【弥生時代再葬墓の調査概要】

調査面積：120㎡

主な遺構：再葬墓9基，土坑墓2基



国重要文化財指定記念

「村尻遺跡出土品」特別展示会

編集・発行：新発田市教育委員会

〒959-2323

新潟県新発田市乙次281番地2

TEL:0254-22-9534

発行日：平成25年6月28日